

平成27年度 日本小児外科学会

第7回定例理事会議事録

日 時：平成 28 年 3 月 15 日（火） 11：00～16：00

会 場：日本外科学会会議室

出席者：黒田達夫（理事長）、越永従道（副理事長）、田口智章（理事・会長）、仁尾正記（理事・副会長）、八木 實、米倉竹夫、奥山宏臣、山高篤行、廣部誠一（以上理事）、濱田吉則、前田貢作（以上監事）、北川博昭（評議員・WOFAPS 理事）、菱木知郎（庶務委員長）、渡井 有（財務会計委員長）、藤野明浩（庶務副委員長）、浦尾正彦（財務会計副委員長）、木下義晶（庶務委員）、村上 聡（以上事務局）
欠席者：漆原直人（理事）、上野 滋（監事）

議事案件：

議 事：

1. 第7回定例理事会の議事録署名人は、越永理事、奥山理事とした。
2. 平成27年度第6回定例理事会議事録につき、全会一致にて承認された。
3. 報告事項

1) WOFAPSについて（北川評議員）

北川評議員（WOFAPS 理事）より WOFAPS の動向について以下の報告があり、了承された。

WOFAPS 理事会を本会第53回学術集会（福岡）の際に開催することが先日決定した。

また、ワシントンで予定されている学会では、スケジュールの遅延および財政がひっ迫していることが問題視されており、各国で参加者を増やそうという合意のもとに、本会でも先日会員にメール配信で案内をさせていただいた。

WOFAPS のアジア代表理事は、オセアニアとは別に2名選出されることになったので、日本としても引き続き理事を派遣できるようにしていきたい。

なお、WOFAPS 事務局はこのたび南アフリカに移転となり、資金はおよそ1,000万円で運営している。

本会としては、引き続き WOFAPS と良好な関係を保っていくこと、積極的に理事を派遣できるよう活動していくこと、演題応募等に協力していくこと、などの方針を確認した。

2) 理事長報告（黒田理事長）

黒田理事長より以下の報告があり、了承された。

- (1) 日本外科学会からの寄贈本「SURGERY TODAY vol46-1～3」を受領した。

- (2) 厚生労働省からの寄贈本「医薬品・医療機器等安全性情報 No.329-330」を受領した。
- (3) 日本臨床検査医学会からの寄贈本「臨床検査のガイドライン」を受領した。
- (4) 日本内視鏡外科学会からの通信文（理事長交代のお知らせ）を受領した。
- (5) 日本医療機能評価機構からの寄贈本「ニューズレター3月号」を受領した。
- (6) 日本小児科医会からの寄贈本「30周年記念式典DVD」を受領した。
- (7) 東京都立小児総合医療センターからの寄贈本「小児がん診断ハンドブック」を受領した。
- (8) 慶應義塾医学振興基金からの通信文「慶應医学賞候補者推薦依頼」を受領した。
- (9) 日本医学会連合からの通信文「第5回理事会について」を受領した。
- (10) がんの子どもを守る会からの通信文「国際小児がんデーキャンペーンのお知らせ」を受領した。
- (11) 第一生命保険からの通信文「第68回保健文化賞候補者の推薦依頼」を受領した。
- (12) 日本学術振興会からの通信文「日本学術振興会賞受賞候補者の推薦について」を受領した。
- (13) 日本医学会からの通信文「第20回公開フォーラムの開催について」を受領した。
- (14) 日本医師会からの通信文「平成28年度日本医師会生涯教育制度について」を受領した。
- (15) 黒住医学研究振興財団からの通信文「研究助成の案内」を受領した。
- (16) 四者協「子どもをタバコの害から守る」合同委員会から禁煙宣言についてのアンケート協力依頼があり、本会として協力することとなった。
- (17) 日本小児科学会より、「小児疾患患者の臨床情報登録の推進を目指す研究事業について」質問を受領し、適宜回答した。
- (18) 日本小児栄養消化器肝臓学会のガイドライン委員として、秋山卓志評議員を推薦することとした。
- (19) 2月17日に日本医学会評議員会が開催され、2019年に日本医学会総会が名古屋で開催されること、新規加入学会として2学会が承認されたことなどの報告があった。また、2月23日には日本医学会連合の会合があった。
- (20) 「災害時の小児周産期リエゾン」設置要望について、本学会も参画することを報告した。
- (21) 鹿児島大学の医療事故調査委員会から外部委員推薦の依頼があり、猪股裕紀洋評議員を推薦した。
- (22) 3月1日に外科サブスペシャリティ学会の4学会の意見交換会が開催され、今後の専門医制度の方針について確認を行った。
- (23) 現在行っているトランジションのアンケートについては、最終的な決定を八木担当理事に一任することとした。

2) 総合調整委員会報告（越永委員長）

越永委員長より、資料に基づき以下の報告があり了承された。

1月25日開催の日本専門医機構サブスペシャリティ学会合同会議、2月2日開催の日本医学会連合 新専門医制度説明会を経て、2月21日に専門医制度合同委員会において小児外科

専門医整備基準案が策定された。

本委員会では、研修期間、経験すべき手術・処置等、学術活動、専門研修機関施設の認定基準、専攻医受入数についての基準、プログラム統括責任者の基準および役割と権限について改めて議論を行い、理事会に報告することとした。

また、学会データベースに関する諸問題、学会が集計したデータ発表に関わる規則・手続について検討を行った。

3) 日本小児連絡協議会（四者協）について（田口会長）

田口会長より、資料に基づき四者協の活動状況につき詳細な報告があり、了承された。

4) 第12回日本小児医療政策研究会について（田口会長）

田口会長より、3月19日に開催予定の同研究会について説明があり、了承された。

当日は、新専門医制度や少子化対策、成育基本法など幅広いテーマについて議論が行われる予定である。

5) 日本小児期外科系関連学会協議会について（田口会長）

田口会長より、2月25日に開催された定例会議について説明があり、了承された。

医科診療報酬改定に関しては、小児慢性特定疾患の入院管理料が20歳まで算定可能となったことが大きな成果である。また、事務局長が葦澤融司先生から松藤 凡先生に交代予定であること、法人化を検討していることなどが報告された。

6) 日本小児科学会小慢委員会について（田口会長）

田口会長より、同委員会にて、小児慢性特定疾患のうち難病指定がされていない疾患について第3次要望を行った旨の報告があった。

7) 電子化WG委員の推薦について（田口会長）

田口会長より、田口会長に加えて小児外科からさらに1名の委員を推薦することが要望され、理事会として人選を行い推薦することとなった。

4. 審議事項

1) 第53回学術集会について（田口会長・木下委員）

木下委員より、資料に基づき準備の進捗状況について説明がなされた。

続いて、会期前日および会期中の各種会議およびセミナー等について、プログラムを勘案しながら、時間調整を行った。

2) 第54回学術集会について（仁尾副会長）

仁尾副会長より、現在の準備状況が報告され、承認された。

以下の企画を予定している旨の説明があった。

招待講演：Dr James B. Atkinson：the interim associate vice chancellor and president

of UCLA Hospital System.

テーマ： Hospital Operations and Managing Patient Experience

文化講演：武藤順九氏 彫刻家・画家、東京芸術大学美部卒、イタリア在住 仙台市出身
なお、以下事項につき今後継続審議していくこととなった。

- (1) 会期内の各種セミナー（感染管理・医療安全・小児救急等）については、専門医機構のクレジットが付与される予定であり、今後は理事会が会長と協力して企画・管理していく形にスライドしていったらどうか。
- (2) 上級演題については、会長とプログラム委員会で協議していく形にスライドしていったらどうか。
- (3) 学術集会における優秀発表賞を新設してはどうか。また、従来の学会賞（論文賞）の発表の場を設けてはどうか。

3) 庶務委員会報告

菱木委員長より、資料に基づき報告がなされ、承認された。

2015年12月末現在の会員数は、評議員を除く正会員1,890名（うち海外3名）、評議員311名、名誉会員53名（うち海外8名）、特別会員70名（うち海外1名）の合計2,324名である。

4) 財務委員長報告

渡井委員長より、次年度予算についてのアンケートを各委員会あてに依頼するとの報告があり了承された。

また、各種セミナーにおける外部講師の謝礼について予算を策定する必要があるため、各委員会においては、なるべく企画段階で財務委員会に情報を知らせていただきたい旨要請があった。本件については、今後、新専門医制度におけるセミナー開催の定例化ともあわせ、運用方法を検討していくこととなった。

5) 各種委員会報告及び審議事項

(1) 国際・広報委員会報告（黒田担当理事）

黒田担当理事より、資料に基づき以下の報告があり承認された。

・NCD、日本医師会、日本外科学会等からの各種連絡事項をホームページおよびメール配信を用いて会員に通達した。

・NCD 関連の報告内容が増加しているため、NCD－小児外科関連 のホームページ内の項目修正を行った。

・日本外科学会認定医から外科専門医／日本外科学会認定登録医への移行に関する特別措置について、該当会員への周知を行った。

(2) 機関誌委員会（奥山担当理事）

奥山担当理事より、資料に基づき以下の報告・提案があり承認された。

- ・直近の査読状況が報告された。
- ・3件の転載依頼を許可した。
- ・現在の症例報告の超過料金は、2ページまで無料、3ページ以降は1ページあたり15,000円となっているが、現状で全ての症例報告で3万円以上の超過料金が発生しており、他誌と比べても割高感があるとの指摘があった。審議の結果、審査料として1万円を徴収する代わりに、無料ページを3ページに増やすのが妥当との結論を得た。今後、財務への影響も含めて検討を進めていくこととなった。
- ・症例報告のページ数をできるだけ圧縮するよう、査読を通じて著者に指導を行っていくこととなった。

(3) 保険診療委員会（廣部担当理事）

廣部担当理事より、資料に基づき以下の報告・提案があり承認された。

- ・平成28年度診療報酬改定
本会より提出した技術新設は7件中3件、技術改正は5件中3件が採用（一部採用）という結果であった。新規採用の腹腔鏡下総胆管拡張症手術の点数は34,880点で、開腹による総胆管拡張症手術49,580点（今回増点）よりも低く設定された。今後、腹腔鏡下総胆管拡張症手術の手術時間や医材料について再調査を行い、腹腔鏡手術の点数を上げる方向で改正要望を行う方針である。
- ・今回の改定で採用されなかった腹腔鏡下胆道閉鎖症手術について、日本胆道閉鎖症研究会が中心になって先進医療への申請を検討することとなり、そのワーキンググループに小高委員長が参加することになった。これに伴い、委員会が所持する腹腔鏡下胆道閉鎖症手術を含む内視鏡手術のアンケートや医材料調査のデータを日本胆道閉鎖症研究会へ提供することとなった。

(4) 教育委員会（山高担当理事）

山高担当理事より、資料に基づき以下の報告があり承認された。

- ・卒後教育セミナー・内視鏡手術セミナーの進捗状況について報告された。
- ・第10回子どもの食育を考えるフォーラム
平成28年1月23日（土）に飯田橋レインボービルにて開催の同フォーラムに、四者協の栄養委員会の担当者として山高理事と内田委員が出席し、山高理事が開会挨拶を担当した。また、浦尾正彦先生が「小児の栄養評価法」の演題で講演を行った。5月の第119回日本小児科学会学術集会においても、内田委員が同フォーラムの報告を行う予定である。

(5) 悪性腫瘍委員会（米倉担当理事）

米倉担当理事より、以下の報告があり承認された。

- ・小児の外科的悪性腫瘍、2014年登録症例の全国集計結果を学会誌52巻1号に投稿した。
- ・日本小児血液・がん学会疾患登録、日本小児外科学会悪性腫瘍委員会登録、小児がん全国

登録の連携のための検討を進めている。

(6) 学術・先進医療検討委員会（八木担当理事）

八木担当理事より、資料に基づき以下の報告があり承認された。

・学術資料に関する収集・調査分析と報告

学術集会発表より優れた手術ビデオを選出し、HP のビデオライブラリー（デジタル化）に毎年追加する。学術集会を3か月後にひかえ、情報共有を行っている。

・新生児外科全国調査と報告

平成28年2月23日に、「NCDによる新生児外科全国集計プロジェクト打ち合わせ」がNCD事務局（御茶ノ水）で行われ、本委員会代表1名が出席した。

・会員対象のアンケート調査依頼の審査および認可

2011-2012年の学術・先進医療検討委員会（濱田前担当理事、河野前委員長）の仕事であった、「新生児消化管穿孔の実態調査」の委員会報告が佐藤正人委員より当時の委員会の中で校正され終了した。調査内容を、今年の総会で発表しPSIに投稿、その後、学会HPにアップする予定である。

・先進医療及び学術的情報収集および会員への情報提供

現在HP上に掲載されているガイドラインの削除候補と新規ガイドラインの掲載候補のピックアップを行い、掲載ガイドライン（案）を作成する。また、2014-2015年のpediatric surgery 領域でのsystematic review 論文で、Impact Factor がPediatric Surgery International, European Journal of Pediatric Surgery 以上の論文をPubMed検索し、41論文がセレクトされ、要約中である。

(7) 倫理・安全管理委員会（漆原担当理事）

黒田理事長（漆原担当理事代理）より、資料に基づき以下の報告があり承認された。

・第53回日本小児外科学会学術集会（福岡）での感染セミナー、医療倫理セミナー、医療安全セミナーの準備を進めている。

・医療事故調査支援センター（日本医療安全調査機構）への対応について

医療事故調査に外部委員として学会が専門医を推薦していただくために、学会担当者リストを提出してほしいとの依頼があり、小児外科専門医（1回以上更新した方）にアンケートを行い、医療事故調査に外部委員として協力いただける専門医を確認した。

なお、医療事故調査支援センターからの依頼があれば、まずは学会事務局に連絡していただくこととなった。

・学会ホームページに「倫理安全管理委員会だより」を近々アップロードする予定である。

(8) データベース委員会（米倉担当理事）

米倉担当理事より、資料に基づき以下の報告があり承認された。

・第2回NCD-小児外科領域会議

平成27年10月31日に行われ、事前申込は64施設、参加者は100名近かった。今後も、

小児外科学会学術集会および小児外科学会秋季シンポ・PSJM 期間中に行う予定である。

・2016 小児外科-NCD 術式対応表、仕様書_小児外科 NCD-Pediatric(Ver.1.7.17)3 について検討を行った。また、一般会員から、新しい術式の要望を募る方式について検討され、ホームページでの公募と小児外科領域会議中での提案受付の2段階で行うこととなった。

・NCD 登録の不具合発生の通知と解決の通知

NCD から各利用者へ個別にメールで、事象報告と対応法を連絡、また国際・広報委員会から会員へ、学会事務局から患者データ管理責任者・患者データ入力責任者へ、事象報告と対応法につきメール配信された。

・DB 委員会内の各プロジェクト(site visit、NCD-P 新生児、アニュアルレポート、一括アップロード、CRF Q&A)について、メンバーを振り分けた。

・アニュアルレポートについて、解析条件(対象データ、分析項目)の決定、高難度手術等の術式定義(NCD 術式番号による)改訂が検討され、対象症例の適格基準/除外基準はほぼ確定した。文書化したのち、平原外部委員にデータクリーニングをお願いすることになった。

・Site Visit and Audit のロードマップが検討された。

・NCD-P による新生児外科全国集計について、NCD に解析プログラムの作成を依頼した場合、150-200 万円の初期費用が発生する。これについては、解析の種類ごとの詳細な見積を NCD に求めることとなった。

・1月28日に「小児外科領域の CSV 一括アップロードシステム」が正式リリースされた。

・外科専門医制度の「到達目標3」が適宜修正・追加された。

・小児外科年次報告集計条件案について

現在、小児外科学会認定施設の要件を満たすための手術数や小児外科専門医取得のための手術数のカウントは、NCD に入力されたデータにもとづいて行われている。今後、他領域と同様に小児外科学会における判定のロジックを公開していくこととなった。本委員会で素案を作成し、専門医制度委員会に決定を委ねる予定である。

・小児外科学会・NCD・NTT-PC 3者会議

NCD 導入後の運用状況と、どの部署がどこまで責任を持っているかを、小児外科学会、NCD、NTT-PC の3者で確認した。

NCD 導入後の NTT-PC の判定システムの運用について検討したところ、少なくとも第3助手以降のデータが復活し登録されていることが判明したが、遡って以前のマスターを変更することはしないこととなった。また NTT-PC からは判定ロジックについては提出がなく、次回の会議時に検証することとなった。また学会事務局端末内の現在のマスターも確認しておく必要がある。

・第3回 NCD-小児外科領域会議

5月の学術集会開催期間中に行う。田口会長のご厚意により会場費は負担せずに済むことになった。

(9) 小児救急検討委員会(奥山担当理事)

奥山担当理事より、資料に基づき以下の報告・提案があり承認された。

・ PALS 講習会

9月17日(土)～19日(月)に大阪で開催予定であったが、大阪会場の確保ができないことが判明したため、東京でおこなうこととする。

・ 小児救急セミナー

5月25日(水)に市川光太郎先生から虐待に関するご講演をいただく予定である。

・ ホームページ上の小児救急の受け入れ状況のページの更新について

急性陰嚢症と異物に関しての救急受け入れについて新たに調査して、ホームページに掲載の予定である。掲載施設は、

第1案：認定施設・教育関連施設(現行)＋専門医または指導医が常勤で勤務していて、入院・緊急手術が可能な施設

第2案：認定施設・教育関連施設(現行)(※現在もすべての認定施設・教育関連施設が掲載されているのではなく、掲載希望のあった施設を掲載している)

で検討を進める。

なお、情報の収集は、専門医・指導医宛てにメールを送信して、添付書類に記入していただき、各施設の代表者に返信していただく方法とする。

(10) 利益相反委員会(漆原担当理事)

黒田理事長(漆原担当理事代理)より、前回理事会より特に進捗はない旨報告があった。

(11) ワークライフバランス委員会(廣部担当理事)

廣部担当理事より、資料に基づき以下の報告・提案があり承認された。

・ 女性評議員推薦枠(クオータ制)導入案について

全評議員に占める女性評議員数の目標値を10%(30名)に設定し、女性評議員推薦枠(クオータ制)を導入する方針とする。平成28年度評議員会で説明、同意を得て、平成29年度の評議員選出時より開始する。

本学会は特定非営利活動法人であり、男女に対し別個の評議員定員枠を作ることはできない。委嘱で選出する方向だが、専門医の中から活動意志を持つ者を選ぶなど、選出する方法を考慮すべきである。

女性専門医の中から委員会活動が可能かどうかの意志を事務局、WLB検討委員会で確認、リストアップし、理事会に提出する。その候補者の中から、理事長推薦として委嘱評議員を選出する。平成29年度の委員会メンバー選出時から委嘱評議員を選出し、委嘱任期は2年間とする。

(12) トランジション委員会(八木担当理事)

八木担当理事より、資料に基づき以下の報告・提案があり承認された。

・ 移行期支援ガイドブックについて

移行期に関わる病態を有する代表的な小児外科疾患をあげ、移行期支援ガイドブックを作成した。委員会内の作業として、各病態毎にできるだけ書式や量を統一した。

今後、理事会内で各疾患の担当を決めて1週間を目途に意見を聴取し、その後、国際・広報委員会にパブリックコメント募集の依頼を行うこととした。

6) 次回評議員会について

黒田理事長より、重要な議案について、あらかじめ評議員に概要をお知らせして検討いただくことが提案され、了承された。

7) 名誉会員・特別会員推戴について（黒田理事長）

候補者につき検討を行い、本年は以下の推戴候補者を評議員会に提案することとなった。
名誉会員推戴候補者：菰澤 融司先生、福澤 正洋先生

8) 次回定例理事会日程の確認（黒田理事長）

次回理事会は平成28年5月23日（月）10：00～14：00 福岡シーホークにて開催することが確認された。

理事長 _____

理 事 _____

理 事 _____